相談支援

アートセンター集では、昨年度より相談窓口を開設。今年度（6月9日～3月26日）は、550件の相談がありました（県内209件、県外341件）。

最も多かった相談は昨年同様、「見学したい」です。当法人では、重度の障害のある利用者も「仕事」として日常的にそれぞれの表現・創作活動をしていることから、活動や支援のあり方への関心が高く、昨年に引き続き多くの見学を受け入れました。主に、当法人の5つのアトリエを巡る「アトリエ見学ツアー」を紹介していますが、多くは日程が合わず個別見学で対応しました（見学者287名）。見学の際も様々な質問や相談に応じています。

増加傾向にある相談は、「作品を発表したい」や「展覧会を開催したい」です。昨年度よりアートセンター集が知られるようになり、作家本人や家族から「作品を見てほしい」「発表したい」という相談が増えています。また、大学から障害者アートの「展覧会を開催したい」という相談が2件もあり、学生などと共に開催。「作家に講義してもらえないか」との相談にも応え、3名の作家が学生を前に表現活動について話す機会を得られたことは、大きな成果となりました（P75に学生の感想を掲載）。

表現活動をする事業所が増える中、創作環境だけでなく表現活動をどう位置づけるかの相談や、著作権に関する相談も昨年より増え、障害のある人の芸術活動の広がりと共にその支援の深まりを感じています。また、個人への対応では、表現活動の基盤は生活にあり、その充実を考えて支援や相談にあたることの大切さ、他の支援機関や専門家等との連携の重要性を改めて感じました。

相談 ベスト5　誰からのどんな相談に多く対応したか

1	作者・作家	充実させたい	58
2	大学・研究機関	取材したい	57
3	作者・作家	作品を発表したい	48
	福祉事業所	見学したい	48
4	企業・市民	見学したい	36
5	大学・研究機関	見学したい	22

相談件数＊ 550件
県内209・県外341
2017年6月～2018年3月

＊ 相談件数は、「障害者の芸術活動支援モデル事業」連携事務局の集計方法に従った相談対応件数です。

相談内容 ベスト5　全体で多かった相談

1	見学したい	123
2	充実させたい	76
3	取材したい	67
4	作品を発表したい	55
5	売りたい	35

相談者別件数　相談が多い順に

c	福祉事業所	151
a	作者・作家	150
g	大学・研究機関	123
f	企業・市民	85
d	国・自治体	18

相談分類表

2017年6月～2018年3月

相談内容					相談者 a 作者・作家	b 特別支援学校	c 福祉事業所	d 国・自治体	e 美術館・ギャラリー	f 企業・市民	g 大学・研究機関	h 報道関係者	z その他	合計
1 創作環境に関する相談	1 法的助言を要しない	1		はじめたい	5	0	15	0	0	0	2	0	0	22
		2		充実させたい	58	0	16	0	0	0	2	0	0	76
		3		関わりたい	4	0	0	0	0	2	0	0	0	6
		4		特定の作家に会いたい	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
		5		見学したい	5	7	48	0	4	36	22	0	1	123
		6		作品の保存について	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
				その他	15	0	1	0	0	0	0	0	0	16
	2			法的助言を要する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				小計	87	7	84	0	4	38	29	0	1	250
2 展示機会に関する相談	1 法的助言を要しない	1		作品を発表したい	48	1	5	0	1	0	0	0	0	55
		2		出展を依頼された	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		3		展覧会を開催したい	0	0	7	2	1	4	4	0	0	18
				その他	0	0	7	9	0	0	0	0	0	16
	2			法的助言を要する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				小計	48	1	19	11	2	4	4	0	0	89
3 作者の権利保護に関する相談	1 作品出展	1		出展契約を締結したい	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
				その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				小計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	2 作品寄託（寄贈）	1		寄託（寄贈）したい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2		寄託（寄贈）を受けたい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3 作品の二次使用	1 二次利用を依頼された	1	商品化	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2	写真掲載	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2 二次利用したい	1	商品化	0	0	4	0	0	1	20	0	1	26
			2	写真掲載	0	0	0	0	0	6	2	0	0	8
				その他	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
		その他			1	0	0	0	0	2	0	0	0	3
		小計			1	0	4	0	0	15	22	0	1	43
	4 作品売買	1		売りたい	0	0	16	0	0	19	0	0	0	35
		2		買いたい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計			0	0	16	0	0	19	0	0	0	35
	5	1		作品の取扱全般に関する相談	1	0	19	3	0	2	0	0	0	25
		2		成年後見制度利用に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計			1	0	19	3	0	2	0	0	0	25
4 取材	1			取材したい	0	0	4	0	0	4	57	2	0	67
	その他				0	1	0	0	0	3	9	2	0	15
	小計				0	1	4	0	0	7	66	4	0	82
その他の相談					13	1	3	4	0	0	2	0	1	24
合計					150	10	151	18	6	85	123	4	3	550

相談事例×7

相談事例①

福祉事業所 「表現活動を始めたい」

内容 次年度から生活介護施設を開所予定。表現活動を支援に組み入れたい。

回答・対応

1. 施設見学
「アトリエ見学ツアー」の情報をお知らせし、参加に至る。工房集での展覧会と共に、5つのアトリエでの創作活動の様子や職員との関わりを見てもらう。

2. インターンシップ研修
他の職員にも見てもらいたい、もっと深く知りたいという意見があり、「インターンシップ研修」の情報を伝え、4名が参加。3つのアトリエの現場で、1日職員の関わりや、環境設定などを体験してもらう。

3. 情報提供
見学ツアー以外の人材育成研修や、県内の施設職員が展覧会の実践を通して日々の悩みや情報を共有できるネットワーク、TAMAP±〇があることを伝えた。開所後に参加予定。

相談事例②

福祉施設職員「作品の価格をどう考えたら良いか」

内容 表現活動が施設内に広がり、展覧会等の機会が増える中、「作品を買いたい」という声も出てきている。そもそも表現活動をどのように位置づけていくか、また、作品売買の際の価格設定や注意点を教えてほしい。

回答・対応

1. 情報収集
施設内でどのように表現活動が取り組まれているのか、聞き取りを行う。また、作品売買に関する著作権等を施設としてどう考えているか、確認した。

2. 面談・情報提供
当法人の表現活動の位置づけや価格設定、著作権に関する取り組みなどの情報を提供。しかし、あくまでも一例で、すべて施設内で話し合い共有することが大切であるため、訪問しての対応も可能だと伝えた。

3. 専門家と訪問し、話し合いの場を設ける
美術の専門家と事前に情報を共有し、施設に訪問。創作の背景を語り合い、表現について考え、施設内で共有してもらう機会とした。また、創作現場や作品も拝見。専門家が美術業界における作品価格の考え方などを教え、外部の評価を得ながら各部署より参加した10人の施設職員と価格設定を検討した。

相談事例③

相談支援専門員 「絵を描いている相談者がいる。作品を見てほしい」

内容 生活支援の相談で関わっている障害のある方が、家で絵を描いている。
一度、アートセンター集で作品を見てもらえないか。

回答・対応

1. 情報収集
相談支援専門員から支援状況など詳細ついて情報収集を行う。

2. 面談
本人から生活の様子や思いを丁寧に聴き、描いた作品も見せてもらう。「埼玉県表現活動状況調査」の情報を伝え、提出を提案。また、自由に絵を描く活動の場を紹介した。

3. 展覧会への出展
本人の意思を受け、調査票を提出。選考に通り、第8回埼玉県障害者アート企画展の出展につながった。展覧会には家族も来場し喜んでいた。生活の支援も視野に入れ、引き続き相談支援専門員と情報を共有し対応していく。

相談事例④

精神障害のある作家 「作品を展示したい」

内容 昨年度からの継続。自宅で絵を描いている。公募展などがあれば教えてほしい。

回答・対応

1. 状況確認
メールや電話で定期的に本人や家族の状況、描いている絵についての連絡が来るので、その都度対応し、思いを聴き取る。

2. 情報提供
本人の作品に合った公募展があったので、情報を伝えた。とてもやる気になり、応募。

3. 展覧会への出展
公募展に見事通り、作品が展示された。本人から連絡があり、喜びを共有。創作にも勢いがつき自身で個展を企画し開催に至る。

相談事例⑤

発達障害のある方とその家族 「日中の活動場所を探している」

内容 就労移行や就労支援B型に所属したこともあるが、うまくいかずに辞めてしまう。
絵は好きで家で描いている。今後の活動場所を探している。

回答・対応

1. 面談
工房集にて面談を行い、相談者の思いを丁寧に聴き取る。また、表現活動を仕事として取り組んでいる当法人のアトリエを見学してもらう。

2. 相談支援員につなぐ
表現活動の支援だけでなく福祉的な支援が必要だと判断し、相談支援専門員につなぎ、面談を行う。

3. 実習を行う
以前の事業所でうまくいかなかった経験もあるので、まずは表現活動をしている事業所で実習をしてみて、考えてもらう機会をつくった。

相談事例⑥

大学教授　「大学内のギャラリーで展覧会を企画したい。
障害のある人の表現活動について講義してほしい」

内容　構内のギャラリーで工房集の作家の展覧会を開き、学生に表現を感じてもらいたい。また、学生たちに表現活動の話を聞かせたい。

回答・対応

1. 企画についての確認

展覧会のコンセプトや期間、搬入出等について確認。また、講義の内容についても共有し、当法人や埼玉県の事例を伝え、障害のある作家による講演を提案。

2. 展覧会の開催・講義内での講演

学内のギャラリーで展覧会を開催。また、会期中の講義で講演。出展作家3名が、約80名の学生に向けて、作品への想いや表現活動での自身の変化などを話す機会をつくった。

相談事例⑦

大学教授・学生　「展覧会を企画したい」

内容　大学の学園祭に合わせて展覧会を企画したい。美術を学ぶ学生たちに障害のある人たちのアートに触れてほしい。

回答・対応

1. 施設見学・内容の確認

まずはアトリエを見学する機会を設け、活動する作家の様子や作品を見てもらう。その後、展覧会の企画内容を確認。

2. 展覧会準備を通して作家と関わる機会をつくる

展覧会で使用するキャプション等の準備のため、取材の日程を設ける。出展作家の創作現場を見てもらったり、作家にインタビューをしてもらったりと作家と関わる機会をつくる。

3. 展覧会の開催

展覧会を開催。多くの学生に見てもらう機会となった。また、展覧会後、準備から開催までの振り返りを学生と共に行った。

相談事例⑥…学生さんの感想

「私の夢は海外に展示されること」「僕の夢は漫画家として有名になること」と熱がこもった言葉を聞いた時は、今自分の将来を夢と現実の中で模索している私にとってとても羨ましく感じましたし、とても魅力的に見えました。障害のある方が「働く」という中で、表現という場を選び、ただ「やりたい」という感情だけでなく、しっかりと生きていくためのお金を稼ぐことができているという現状は、障害のある人ではなく、一人の人間として私たちと同じように今、世界を生きているという実績を提示していると思いました。作者の方はもちろんですが、サポートされている職員の方の力も大きいと感じました。

障害者の方々のアートは独特かつとてもアーティスティックなものすごく素敵なものばかりでした。また、何よりみなさんが心から芸術を楽しんでいるというのがとても伝わり、私も見習って芸術を楽しみながら世に発信していけるようになりたいと思いました。

「働くことは権利である」という視点に芸術が合わさって外に発信し続けられている現状を初めて知りました。お互いに影響し合う環境の中で自己と向き合い、作品にすることで社会に溶け込み、社会に求められるシステムが確立されていて、障害者の芸術を支援する重要な組織であると感じました。逆に障害のある人々が芸術の壁を打ち壊して教えてくれることが多く、新しい価値創造に社会が発展する機会を提示しているなと思いました。これからも注目したい団体だな！と思います。

好きなことを仕事にする、働くという権利を守る、というみぬま福祉会の理念に、ハッとさせられました。紹介された、どんな作品もすべて、作り手の〝私〟というものがあふれていて、目をひきつけられました。そして、私自身文章を書き続けて10年以上になりますが、最近上手い文章とは、キレイな文章とはと考え続けて筆が進まないことがあります。けれど、初めて文章を書き始めた時の、あの書きたくて書きたくてたまらない、という思い。自分を表現したいというあふれてしまった〝私〟を文章にするということを忘れずにいたいと思いました。

障害のある人も私たちと同じように様々なことに悩み、考え、自分の個性を見つけていくんだということに驚きました。個性的な方が多いので、最初から面白い個性的な作品を作ってしまうものだと思っていたので、同じような悩みを抱えていて、親近感がわきました。どんな素晴らしい作品も苦労なしでは生まれないのだと改めて実感しました。

今回の障害者の方々の作品を見て、感じることがありすぎてとても面白かったです。有名な画家やデザイナーの展覧会を見てさすがだなと思うことは多々あるのですが、考えつくせば答えが見えるような感じで、見続けられないなと思っていましたが、障害者の方々が描く芸術の数々は、まったく飽きず、とても魅力的だなと思いました。

表現って本当に幅が広くおもしろいなーと思いました。これは偏見かもしれないですが、障害のある方はすごく細かい作業をしますよね！とても根気のいるような、ヒェ～となるような細かく繊細な絵を作っていてすごいなーと思いました。〝自分自身〟を表現することで、評価されるってとても直接的でわかりやすくて良いですね！メンバーでそれぞれ刺激し合い、切磋琢磨している姿、素敵です。ブラック企業と呼ばれる会社は見習ってほしいですね。

今日見たアートはとても興味をそそられた。どのような思考で形にし、表現しているのか様々な色彩から推測してみてもわからない所が面白く感じた。また作家のアートをこの先どうつなげていくか、どうアートをプロデュースしていくかもとても考えられていて、作られたグッズにはユニークな魅力があった。新しいブランディングの形で素晴らしいと感じた。

第Ⅲ章 まとめ

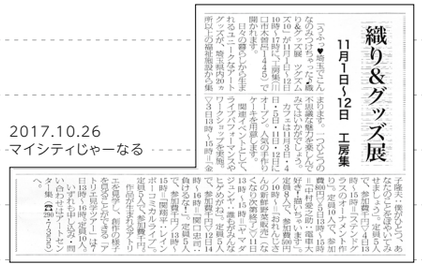
i 支援のいま
— 支援の現状と活動の成果 —

ii 活動のこれから
— 課題を踏まえて、今後の展望 —

今年度、広報活動にも力を入れました!

2017.9.7 読売新聞

2017.9.1 朝日新聞



2017.10.26
マイシティじゃーなる

2017.12.8
埼玉新聞

2017.12.3 東京新聞

2017.12.10
東京新聞ホームページ

2018.2.11
埼玉新聞

おかげさまでたくさんの反響がありました。ありがとうございました。